

2019年10月27日

第11回ACPファシリテーター養成研修

【修了者】

知多十

1) 本田文祐

医療法人瑞心会居宅介護支援センターわたなべ介護支援専門員

2) 壹岐英正

医療法人瑞心会渡辺病院理学療法士

3) 大岩ゆかり

医療法人瑞心会渡辺病院看護師

豊田

4) 兼松富美子

豊田加茂医師会介護支援専門員

5) 都築裕子

医療法人社団以心会中野胃腸病院看護師

小牧

6) 宮下善美

訪問看護ステーションはみんぐ看護師

県外

7) 松本晴美

パナソニック健康保険組合松下記念病院（大阪）看護師

8) 吉川裕子

松下記念病院（大阪）看護師

9) 田村真由美

東海大学医学部付属病院（神奈川）看護師

10) 石岡基

株式会社ツクイ（東京）介護士戦専門員

11) 大上美紀

ツクイ・サンシャイン町田東館（東京）介護福祉士

12) 鈴木裕美

橋北楽々館在宅介護支援センター（三重）看護師

【ファシリテーター】

1) 大城京子

快護相談所和び咲び介護支援専門員

2) 大河内章三

支援センターミナミ介護支援専門員

3) 中嶋順子

やまお訪問看護ステーション看護師

4) 三宮綾子

看護師

5) 西川満則

国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部医師

6) 本田みや子

独立行政法人労働者健康安全機構中部ろうさい病院看護師

#### 【サブファシリテーター】

1) 福永康祐

渡辺病院作業療法士

#### 【参加者意見】

・先週のACP研修は体験型で、何度もロールプレイを行なうことで、自分の苦手なことも理解でき、どのように実践したらよいかが明確であり、研修で受講させていただき、とても学びが多かったです。

・受講後、疾患が再発し症状緩和を行なっている40歳代の患者さんに対し、状態が悪くなった時の療養場所などの面談を行ない、ご本人の意向を聴くことができました。主治医には、最期まで治療を望んでいるから、緩和ケア病棟なども説明もしない、と言われたのですが、最期まで治療を望んでいることは勿論ですが、その意向に沿いつつ、今の思い、何を大事にしたいか、治療しても効果がない場合、どこでどのように過ごしたいか、などについて思いを確認したいと、思いました。それが、主治医にも伝わりました。今後も、実践を重ねていこうと思います。

・ACPの具体的な実践を学べ、本当に感謝しております。院内にも広めていきたいと思えます。メーリングリストの登録もよろしくお願いいたします。

・ロールプレイでの実習が多いのではないかと予想はしていましたが、予想以上で、頭がぐーっと締め付けられていました。普段、いかに意図的にコミュニケーションを行なっていないかを痛感させられました。そして、いろいろな人とロールプレイをする中で、自分自身のコミュニケーションのパターンも見えたような気がしました。バッドニュースに絶望感を伴いすぎないようにすることに注力して、肝心の伝えないといけないことがぼやけた言い方をしているように思いました。それが全て悪いわけではないのですが、もっとバランスが取れるようになるといいように思います。

- ACPを進めていく中で、どのテーマについて話を伺うのか、伝えるかという項目が明確になり、ぼやけていた思考が少しくリアになった気がしています。

- 希望をつなぐ、ということにあらためて意識が向きました。一緒に歩むことを伝えて、少しでも支えていける自分でありたいと思いました。今回は大変貴重な研修に参加させて頂きまして、本当にありがとうございました。先生やスタッフの皆様方の温かさと熱意を忘れず、少しずつ実践できるように努力したいと思います。

- たくさんのロールプレイを通して、話を聴くことの大切さを再認識できました。また、ACPのプロセスを繰り返し行い、患者さんやご家族の希望に出来るだけ近づけるように支援する大切さも学びました。今日の学びを活かして、現場でも、目の前の方の希望に目を向けて、関わりを深めていきたいです。今後ACPファシリテーター養成研修の講師にもチャレンジし、さらに学びを深めていきたいと思います。